

ウ 市民アンケート結果

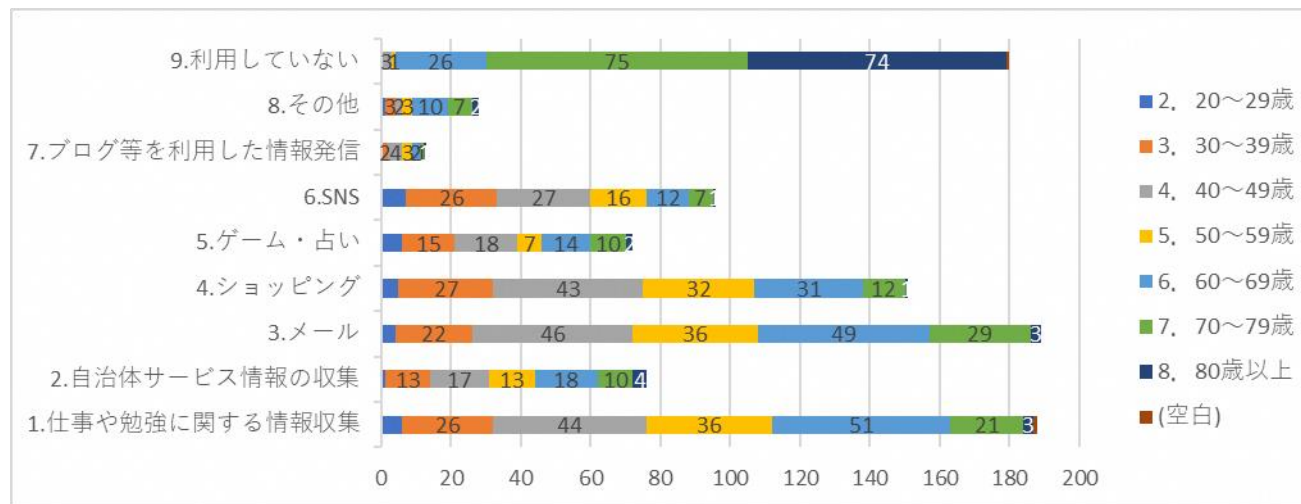
<市民アンケートの概要>

調査対象 : 15歳以上の瑞浪市民 1,000人
 調査期間 : 令和元年8月16日～令和元年8月31日
 調査方法 : 郵送による自記式
 有効回答数 : 490件 / 1,000件 (回答率49.0%)
 ※前回の回答率は45%

<インターネットの利用目的について>

インターネットを利用していないと回答された方は180件(36.7%)であり、前回のアンケートの34.5%と大きな変化はありませんでした。

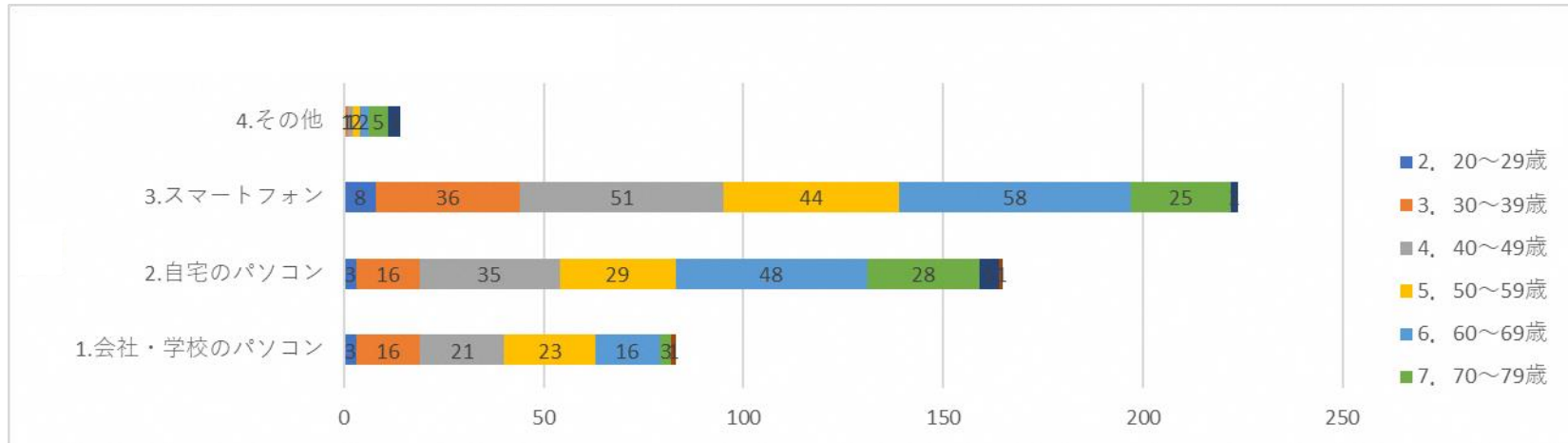
インターネットを利用していない方の年齢層を見ると、70歳以上が149件(82.7%)であり、この層へのインターネット普及は課題であると言えます。



インターネットの利用目的

<インターネットのアクセス方法について>

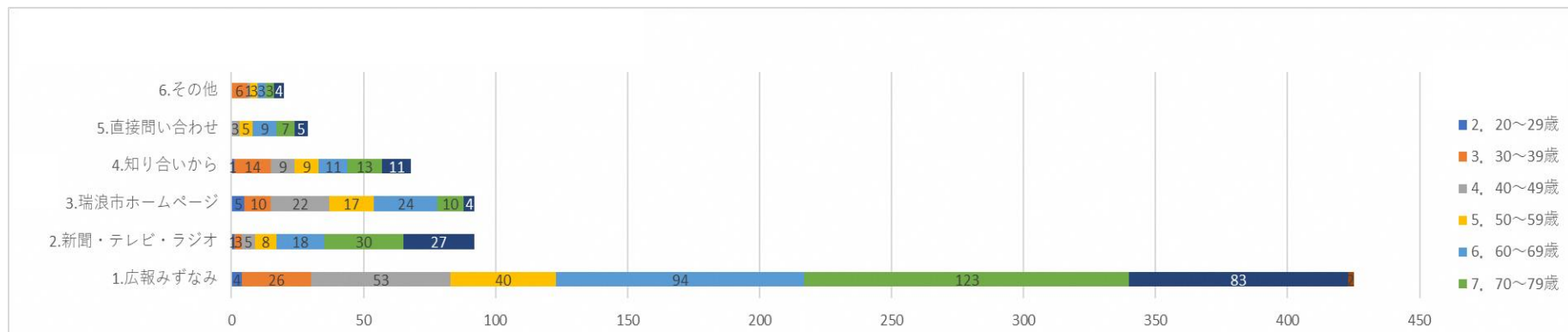
今回はスマートフォンが74.7%であったのが、63.7%に減少したのに対し、スマートフォンの利用が45.9%から79.7%に急伸しており、世間の情勢を反映したものとなっています。



インターネットのアクセス方法

<情報の取得先について>

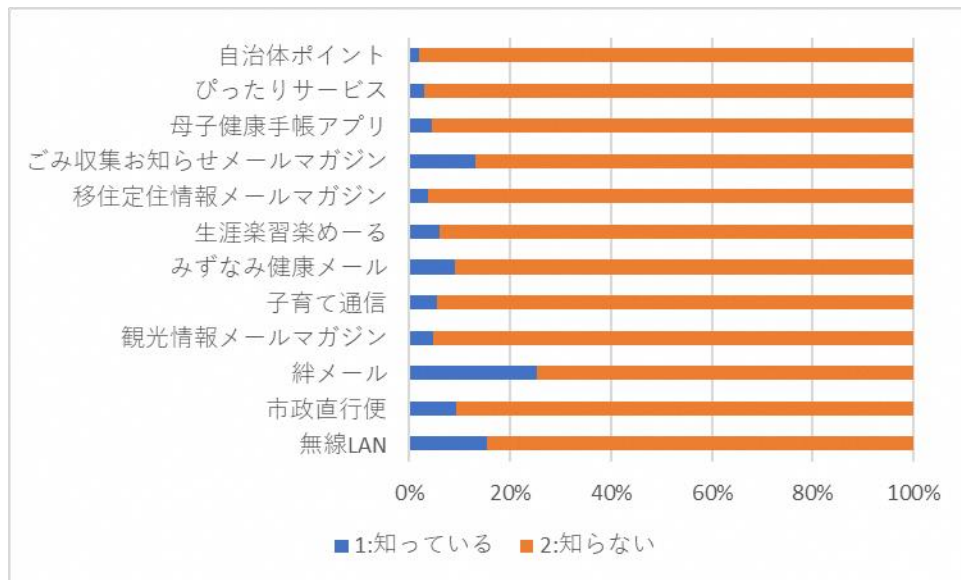
市民の情報の取得先として、広報と回答した方が86.7%となり大多数を占める状況となっています。新聞、ホームページがそれぞれ、18.8%であり、情報の取得先として認知が低い結果となっています。



情報の取得先

<市民サービスの周知状況について>

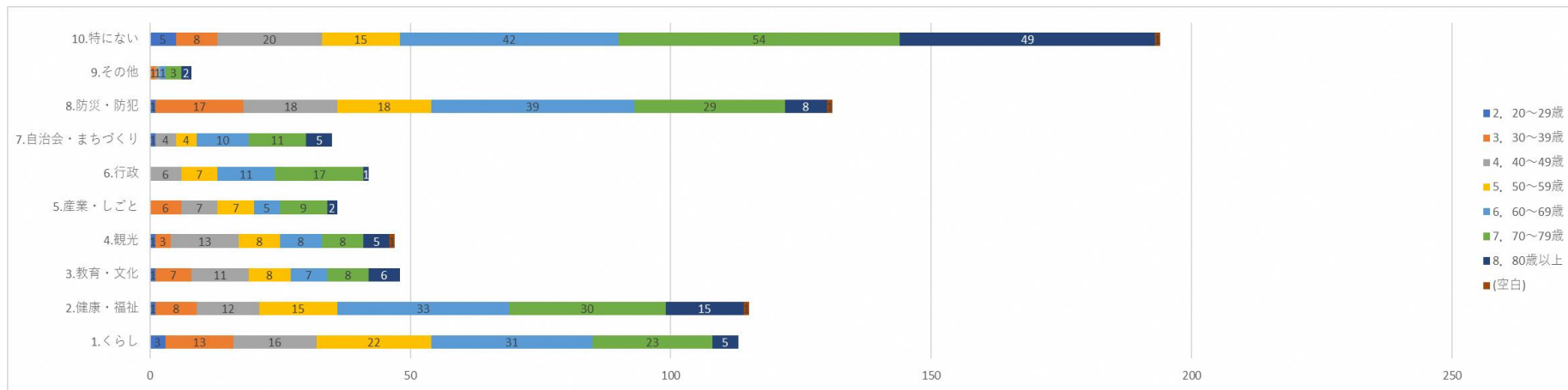
市で整備した無線LAN、各種メールマガジン、市政直行便などの情報基盤、マイナンバーカードや自治体ポイントなどの制度について市民の認知度が20%に満たないものがほとんどであり、低い状況となっています。情報化を推進するにあたり、これらの情報基盤や制度について市民に認知してもらう必要があります、広報等による周知を行う必要があります。



市民サービスの周知状況

<受信したい情報について>

最近の異常気象による災害を受け、26.7%の方々が防災・防犯情報を希望しています。この分野への情報提供を強化することにより、情報化による市民生活のサポートが考えられます。

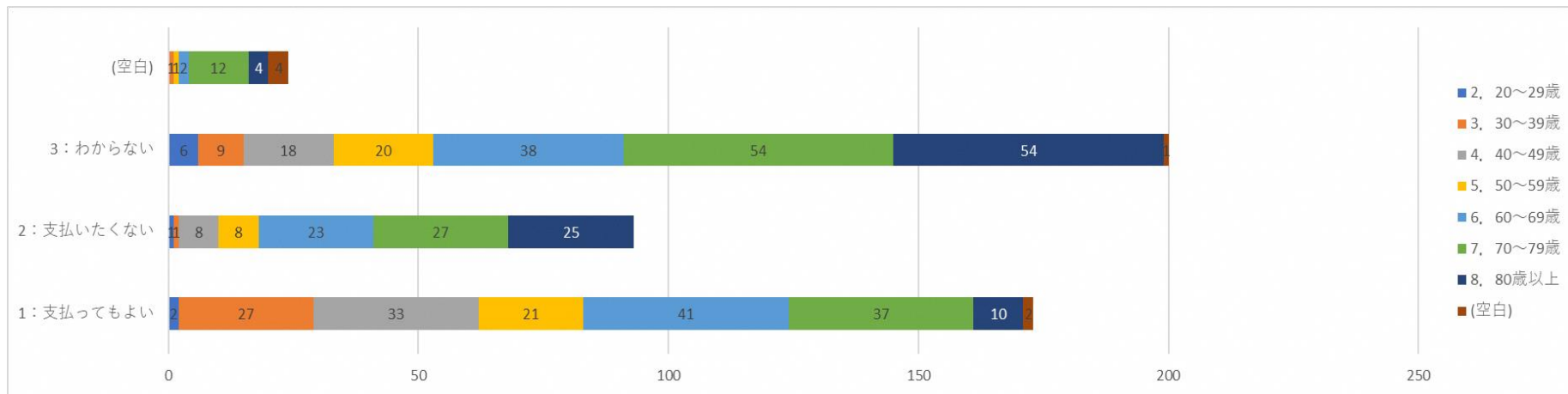


受信したい情報

<キャッシュレスの周知状況について>

一般的なサービスの普及に伴い、「払ってもよい」と35.3%の方が回答しています。

キャッシュレスは国策であることから、キャッシュレスの導入について検討していく必要があります。

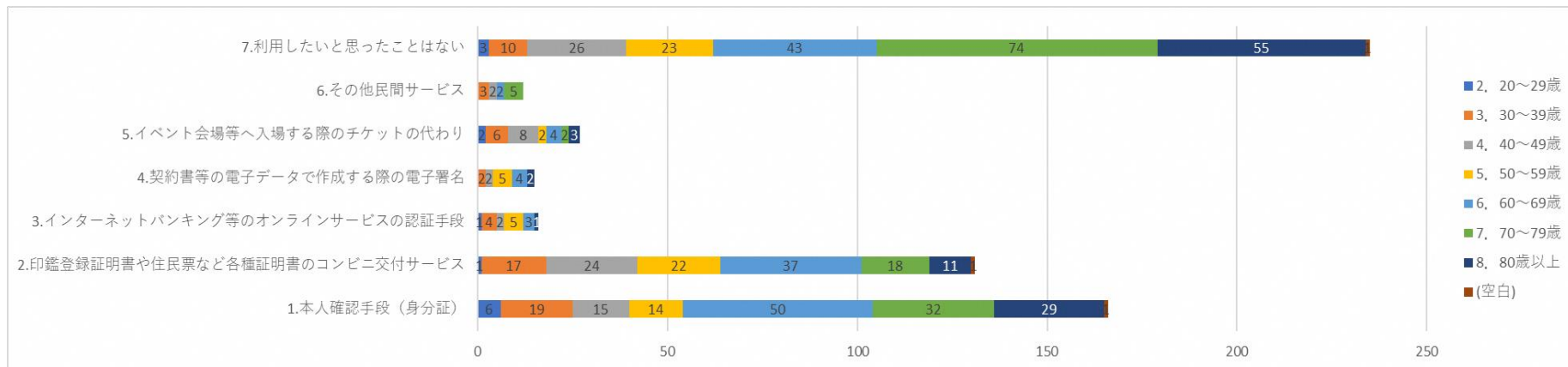


キャッシュレスの周知状況

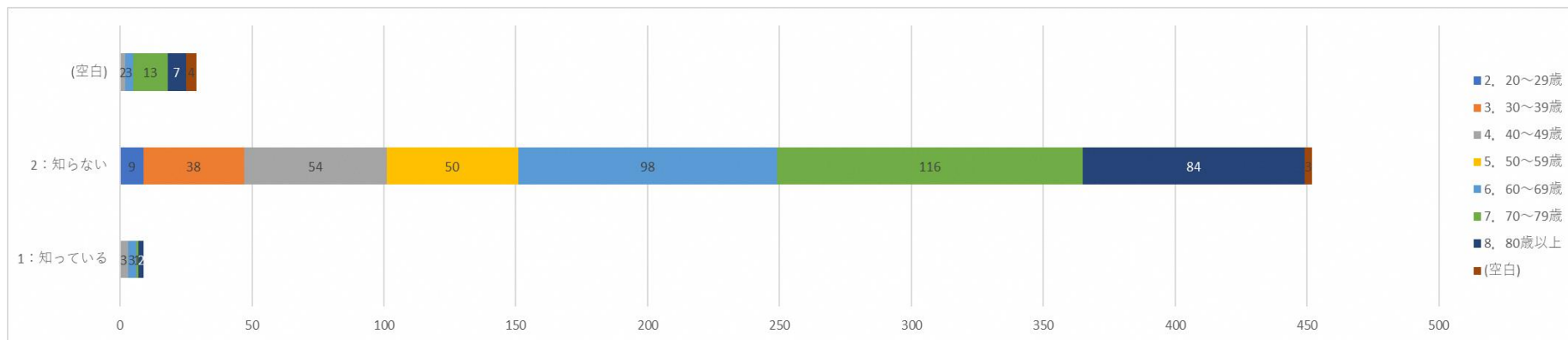
<マイナンバーカードについて>

マイナンバーカードの利用状況は、本人確認手段、証明書交付サービスでの利用が主流です。

マイナンバーカード普及のためにも、既存のサービスのほか、プレミアムポイントなどのサービスの周知が必要です。



マイナンバーカードの利用実績



プレミアムポイントの周知状況